

製品名: RFC2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17049**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	RFC2
別名	RFC2; Replication factor C subunit 2; Activator 1 40 kDa subunit; A1 40 kDa subunit; Activator 1 subunit 2; Replication factor C 40 kDa subunit; RF-C 40 kDa subunit; RFC40
遺伝子 ID	5982.0
SwissProt ID	P35250
免疫原	抗血清はヒト RFC2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

背景

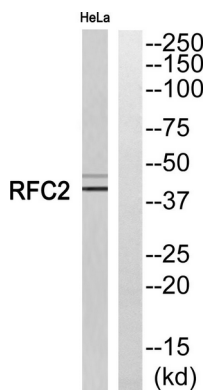
この遺伝子は、アクチベーター 1 小サブユニットファミリーのメンバーをコードします。DNA ポリメラーゼ δ および ϵ によるプライ

ミングされた DNA テンプレートの伸長には、補助タンパク質である増殖細胞核抗原 (PCNA) と複製因子 C (RFC) の作用が必要です。複製因子 C はアクチベーター 1 とも呼ばれ、5 つの異なるサブユニットからなるタンパク質複合体です。この遺伝子は 40kD のサブユニットをコードしており、このサブユニットは ATP 結合に関与することが示されており、細胞生存を促進する可能性があります。この遺伝子の破壊はウィリアムズ症候群と関連しています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。この遺伝子の擬似遺伝子は 2 番染色体上に定義されています。[RefSeq 提供、2013 年 7 月];疾患: RFC2 のハプロ不全は、ウィリアムズ症候群 (WBS) という稀な発達障害にみられる特定の心血管系および筋骨格系の異常の原因である可能性があります。これは、染色体バンド 7q11.23 の遺伝子が関与する連続遺伝子欠失症候群です。機能: DNA ポリメラーゼ δ および ϵ によるプライミングされた DNA テンプレートの伸長には、補助タンパク質である増殖細胞核抗原 (PCNA) およびアクチベーター 1 の作用が必要です。このサブユニットは ATP に結合します。類似性: アクチベーター 1 小サブユニットファミリーに属します。サブユニット: RFC2、RFC3、RFC4、および RFC5 サブユニットのヘテロ四量体で、RFC1 または RAD17 と複合体を形成できます。前者は ATP 存在下で PCNA と相互作用するが、後者は ATPase 活性を有するものの PCNA による刺激を受けない。RFC2 は PRKAR1A と相互作用し、この複合体は細胞生存に関与している可能性がある。

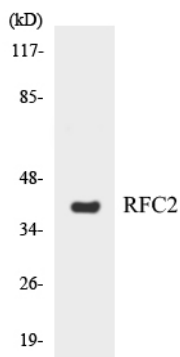
研究分野

DNA 複製、ヌクレオチド除去修復、ミスマッチ修復

画像データ



RFC2 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンが RFC2 ペプチドでブロッキングされている。



RFC2 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。